【樹木の部屋】

ネグンドカエデ（カエデ科カエデ属　Acer negundo）

和名：ネグンドカエデ(ネグンド楓)　　別名：トネリコバノカエデ

英名：Ash-leaved maple、 Ashleaf maple)

ムクロジ目　落葉高木　　原産地：北アメリカ

花言葉：節制、遠慮、自制、大切な思い出　　花色：黄緑

← 写真-１　ネグンドカエデ
撮影日：2019 年 07 月 05 日
撮影場所：大奈良市郊外にて
撮影者：M　さん

↘ 写真-２　ネグンドカエデの幹
撮影日：2019 年 07 月 05 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　ネグンドカエデの小枝
撮影日：2019 年 07 月 05 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M　さん

→ 写真-４　ネグンドカエデの果実
撮影日：2019 年 07 月 05 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

↓ 写真-５　ネグンドカエデの葉
撮影日：2019 年 06 月 28 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

←↗ 写真-６、７　ネグンドカエデの
斑入り小枝と葉
撮影日：2019 年 06 月 28 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

成長が早く寒冷地向きの樹で、高さは10～25m、幹の太さは30～50 cmにもなるそうです。葉は奇数羽状複葉。小葉は1～2対の長楕円状卵形で、「フラミンゴ」と呼ばれる、葉に白色の斑が入る品種もあります。落葉樹ですが紅葉はしません。公園木によく使われているそうです。

雌雄異花、開花時期は４月で、葉に先立って黄緑色の花弁のない花が垂れ下がって咲き、種子は他のカエデ属と同様の翼果です。8月～10月に結実し、果実は食用になるそうです。

日本へは明治時代の初期に渡来し、昭和の頃までは葉がトネリコ(Ash)に似ている事からついた英名からの訳として、トネリコバノカエデの名が用いられたそうです。が、ガーデニング人気とともにネグンドカエデと呼ばれるようになってきたそうです。

元来は樹液からシロップを採取するなど実用的に使われていたそうですが、雄大な樹形や変化に富む葉色に価値があるとして観賞用としても普及してきたそうです。特に斑入りのフラミンゴやエレガンスといった品種の人気が高いそうです。斑入りの園芸品種「フラミンゴ(Flamingo)」の葉は白い覆輪が入り、桃色を帯びてトリカラーになるものもあるそうです。ちなみにシロップは同じように利用されるイタヤカエデよりも甘いそうです。

カエデの仲間としては珍しく挿し木で増やすことができ、苗木の成長も早く、成木となる前に開花することもあるそうです。本編に記載している写真-1～写真-７は、同一樹からの写真ですが、写真-６、７に見られるように白い覆輪入りの枝も見受けられます。上記のフラミンゴかどうかは定かではありません。本樹の元気な枝の葉は緑で、本来のネグンドカエデの様相を保っています。低い位置の小枝にのみ、白い覆輪入りの葉です。斑が入る原因には、遺伝、光合成不足などがあるようですが・・。本樹の原因は不明です。